



生活クラブ風車 夢風 News

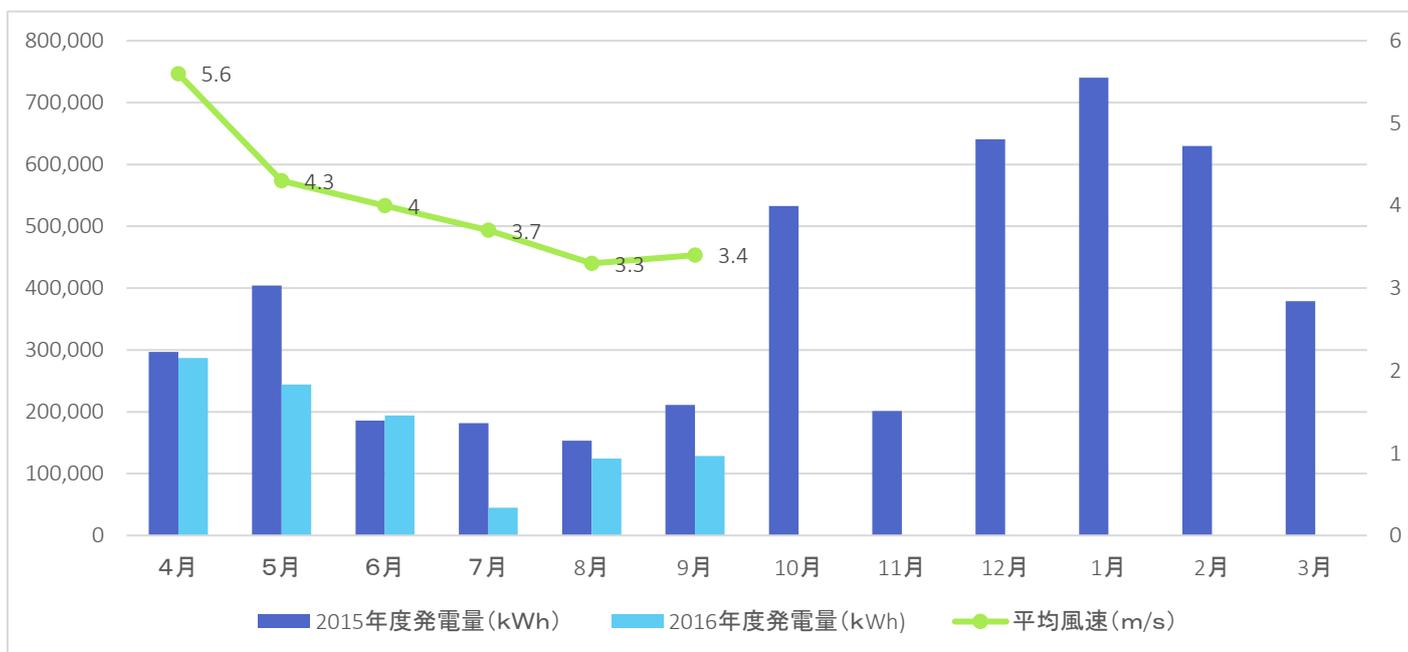


Vol.52

●発行 2016. 10. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田
●発行責任者 半澤彰浩(代表理事) ●編集責任者 西村明子

■2016 年度 発電実績

	発電量 (kWh) 【 前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【 前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	286,904 【 96.7%】	5.6	20.0	10月			
5月	243,884 【 60.3%】	4.3	16.5	11月			
6月	193,900 【104.3%】	4.0	13.5	12月			
7月	45,130 【 24.8%】	3.7	3.1	1月			
8月	124,507 【 81.3%】	3.3	8.4	2月			
9月	128,479 【 60.9%】	3.4	9.0	3月			



○風況は同時期の過去記録と比較して最も低い状況でした。(過去4年平均値：4.12m/s)

○不具合による停止はなく順調に稼働しました。

○9月5日～9月7日にて定期点検(4.5年次)を実施しました。

■ 生活クラブ風車「夢風」建設5周年イベント報告

にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会の主催で、9月22日(木・祝)、生活クラブ東京 生活クラブ館で生活クラブ風車「夢風」建設5周年イベントが行われました。東京、神奈川、埼玉、千葉の組合員や、にかほ市などから109名の参加がありました。また、8月ににかほ市でゼミ合宿を行った法政大学西城戸ゼミからも、学生が参加しました。



挨拶する半澤代表

始めに、にかほ市との連携推進協議会共同代表で神奈川単協の半澤彰浩専務より、これまでの風車の経緯や、にかほ市とのつながりについてふれ、今日のイ

ベントが次の5年、10年につながっていく機会になれば幸いです、と挨拶がありました。

その後、『未来を変える電気の共同購入～「夢風」から始まったエネルギーの産地提携』の映画上映を行いました。映画の出演者やその関係者もおおぜい出席していたので、関係する人が出ている場面ではいつにも増して「〇〇さんいい笑顔！」などと小さな歓声が上がっていました。

ひきつづき、生活クラブ東京副理事長の田中のり子さんをコーディネーターにトークセッションが行われました。



東京前理事長
吉田由美子さん

埼玉理事長
清水泉さん

チェルノブイリ原発事故以来、原発はイヤだという思いがあり、解決策を探るなか、自然エネルギーをすすめていきたいという思いを強くしました。5年前、風車というと竜巻によるブレードの落下や、バードストライクなどマイナスなイメージが独り歩きしており、組合員との議論を重ねて、納得するまで話し合い、一つ一つ問題を解決してきました。

風車を建てることが決まり、総代会の提案のための学習会を行っていたちょうどその時に東日本大震災が起きてしまい、「ああ、間に合わなかった！」という思いと「だから(原発は)危ないって言ったじゃない！」というなんともいえない思いが重なりました。また、「秋田で作った電気を関東で消費するだけなら、原発と構図は一緒じゃないですか？」という意見にハッとし、経済交流や人との交流を作らなければ、という思いを強くしました。半澤さんがお話しされたことや映画でも見られたような活動が生まれ、本当によかったなと感じています。



にかほ市公認
キャラクター
にかほっぺん

プログラム

生活クラブ風車『夢風』建設5周年イベント

10:30 開会(司会:神奈川副理事長 桜井薫)

挨拶 にかほ市との連携推進協議会
共同代表・神奈川単協専務 半澤彰浩

10:35 映画上映「未来を変える電気の共同購入～夢風からはじまった電気の産地提携～」

11:10 トークセッション

12:10 閉会

会場前の広場にて「にかほ物産展」を開催



いでは堂代表
渡辺智史監督

人口減少が続く中で、地域エネルギーを生かした取り組みを取材してきました。問題とか課題と言われたら重く感じてしまうが、生活クラブの夢風の取り組みは、都市住民が電気の選択し、風車が立っているところの農産物などを買うことでその地域とのつながりが深まって楽しく変わっていくというところがいいなと思います。

にかほ市では2001年には15基の風車が稼働しており、当時ほかの自治体からも視察が多くありました。現在は20基ある風車だけではなく、メガソーラーや小水力などもあり、今後も21基の風車の増設が計画されています。2013年にはガイドラインを定めて、自然環境に配慮し景観を損なわないことや、住民説明会をきちんと行うようにしています。他の風車と違い、「夢風」を見ると「今日は元気ないな、頑張れよ！」などと感じる様になりました(笑)



にかほ市総務部企画課
課長 佐々木俊哉さん

芹田地区は農業が基幹産業です。農業がダメになったらどうなるのかという思いでいたところに、地域の中に風車が立つことになり、1周年記念のバーベキューでの交流が大きな転換点でした。そして加工用トマトをやってみるようになりました。今年は去年と比べて3倍に面積を増やし、大豆にも挑戦しています。みなさんに夢風を見に来てにかほを知っていただき、いずれ芹田地区に移り住む人が来てくれたらいいなと思っています。



にかほ市芹田地区
自治会長荒川定敏さん

タラーメンの開発は皆さんと一緒にできて本当に楽しかったです。「タラーメンおいしい」って言ういただき、最近「伊藤製麺所の伊藤」というより、「タラーメンの伊藤」という感じになってきています(笑)。私自身は5年前から、こういったイベントや交流会に参加して、皆さんの声を直接聞くことができ、意識が少しずつ変わって進歩して、それが夢風ブランドという形に表れてきたと感じています。



伊藤製麺所代表
伊藤実さん

吉田さんのお話は迫力がありますね！思わず聞き入ってしまいました。楽しく社会を変えることが大切ですね。映画「おだやかな革命」なども活用しながら、活動を進めていけたらと思います。荒川さんも伊藤さんも映画の中でカッコよかったです！



東京副理事長
田中のり子さん



生活クラブ千葉
理事 船水香さん

消費材としてどう開発しようと正直始めは頭を抱えました。しかし、包材をペットボトルからガラス瓶に変更したり、ラベルを変えたりコストがかかるものを、既存のものを使うことで解決しました。首都圏4単協から3,913本もの注文があり、工場を上げて欠品を出さないようにしていただき本当によかったと思います。電気の共同購入はまだ目標を達成していませんが、知らないという人がいないように組合員に丁寧に伝えていきたいです。



神奈川副理事長
桜井 薫さん

司会の神奈川副理事長桜井薫さんは、「この取り組みは地域との絆を作る取り組みなんだと思いました。私はリーダーのバトンを受け取ったばかりですが、皆さんのお話を聞いてとてもうらやましく感じ早くこの活動に乗りたい！」と熱く語りました。会の終了後は、会場前の広場で夢風ブランドの試食や販売が行われました。にかほ市からは公式キャラクターの「にかほっぺん」も登場し、大人気でした。

■ 埼玉単協「べっぴんさんいちじく」にかけた想い

私たち生活クラブ埼玉の「たくさんの人に食べてほしい」想いと秋田のソウルフードであるいちじくの甘露煮を残したい佐藤勘六商店の想いが一年を越す開発プロジェクトになり、やっと「べっぴんさんいちじく」を産み出すことができました。

関東近郊ではあまりなじみがないため、甘露煮のいちじくはピンときません。



渋谷さん 脇田さん 佐藤勘六商店 東さん
佐藤さん

まずは食べてもらうためにどうしたらいいか、を考えました。秋田ではそのまま食べるところを、ちょっと工夫してさまざまにアレンジした「食べ方提案」をしようというところからスタートしました。

開発にあたり、生産者、佐藤玲さんは会議にほぼ毎回 Skype で参加してくれました。素精糖のこくのある甘味から、グラニュー糖のさっぱりとした甘さにしたこと、また糖度を少し下げたことで首都圏の方にも馴染みやすい味になったと思います。

“ふるさとのお茶請け”としてだけでなく、万能の料理素材としての「いちじくコンポート」をイメージしていただけると嬉しいです。いちじくパイ、カナッペ、なますなど、またシロップも砂糖のかわりに残さず使っていただけます。

「甘露煮」の固定的なイメージを超えた想いから、ネーミングもちょっとオシャレな「べっぴんさんいちじく」に決めました。いちじくの効用にある“女性の味方”の意味が込められています。デザインを一から考えたパッケージも私たちの自信作です。

(生活クラブ埼玉・夢風ブランド開発実行委員会 東ともえ)



三浦さん